

オブジェクト指向プログラミング実験

小嶋一生，吉岡昌雄

電気情報技術系

1 はじめに

本実験は情報電気電子工学科3年次の必修科目として行われている。オブジェクト指向ではJavaを用いて、設計と実装を行う実験であり、ソフトウェア技術の理解を深める。本実験の支援を電気情報技術系の技術職員が行ったのでここに報告する。

2 内容

金曜3・4限に開講されておりオブジェクト指向プログラミングが行われる。プログラミング言語はJava言語、C言語を用いる。実験中は質問のある学生に対して指導を行う事でサポートを行った。オブジェクト指向プログラミングでは課題の内容を見直し、進捗表による班ごとのスケジュール管理を行った。また実験の出席管理システムを構築しており、授業開始前、終了後に学生がメールを送信することで、出席一覧をWEB-SITEで確認できるようにしている。あわせて本システムを利用して、着席している場所も特定する事が可能である。また、実験用のWEB-SITEを公開しており実験に必要な資料などの更新を行った。

3 まとめ

スケジュール表による進捗管理を用いた事で学生の状況を把握しやすくなった。また、班ごとに課題をクリアするスタイルで実施したので、班員でディスカッションするように指導を行った。また、出席システムは対応する技術職員が少なく特にソフトウェア技術の時は6つのテーマが並行して実施されているので有効な確認手段となっている。

また、実験の補足資料や課題提出をMoodleを用いた手法に変更した。これまでメールによる電子ファイルの提出と、紙によるレポートを合わせて提出していたが、Moodleを用いることで、提出状況の確認や期限の設定など管理がしやすくなった。